

交通 I Cカードの相互利用開始

Suica というカードを使って乗り物に乗ることが完全に習慣化してきた。東京駅でいつものように改札口に入り東海道線で国府津へ、そして御殿場線に乗り換えて御殿場へと出かけたことがある。東京駅は J R 東日本だが御殿場駅は J R 東海なので、Suica で下車することはできない。思いがけない出費が発生してしまい、おまけに J R 東日本の駅でカードの未処理分のキャンセル処理をしてもらうことになってしまった。

平成 25 年 3 月 23 日から、全国の 10 の交通 I Cカードの相互利用が可能になったと騒いでいる。

コンピュータとネットワークが発達した世の中で、こんなことが実現できなかったのは不思議だった。

各社が勝手にカードと仕組みを作り、同様のサービス内容を持っていながら相互利用ができなかった。J R 各社間ぐらいは最初から互換性を持たせるべきだったのではないかと思うのが利用者側の本音である。

今回相互利用が始まるのは、J R 各社が発行する「Kitaca」「Suica」「TOICA」「ICOCA」「SUGOCA」、首都圏の私鉄などで利用できる「PASMO」、関西の私鉄などで利用できる「PiTaPa」、名古屋市交通局と名古屋鉄道の「manaca」、福岡市交通局の「はやかけん」、西日本鉄道の「nimoca」。

「これで旅も大分便利になるだろう」と思いきや……………。

J R の各社間の乗車・降車は相変わらずできないようだ。つまり冒頭に述べたような、東京で乗車して御殿場で下車する場合は Suica を使うことはできない。これでは一枚のカードでどこの土地へ行っても買い物ができるということだけで、利用者が求める利便性の上での課題は半分しか解決できていない。「異なる会社間での相互利用可能」とぶち上げてはいるが、「J R グループ各社間」という全国に広がる一企業グループの中でさえ真の相互利用ができていないのでは、かなり低次元の仕組みと言わなければならない。

仕組みの上では何ら評価に値するものではないという私的な結論に達したので、次に各社のカードの名称に注目して見た。今回相互利用が始まる 10 種を中心に、各地に存在するいくつかのカードを選び出してその名称と名前の由来を調べて見ることにした。

J R 各社のカードを眺めて見ると、北海道以外はすべて凝りに凝った横文字の頭文字になっている。J R 北海道のカード名称は「北のカード (キタカ)」と大変すっきりしている。参考にとらえて北海道の他のカードも調べて見たら、札幌市営地下鉄のカードは「サッと取出しピッと使うカード (サピカ)」とこれまたわかりやすい日本語になっている。北海道の人は日本語の響きを大事にし、解りやすい表現を好むのかもしれない。名古屋・静岡を中心としたエリアで使われる J R 東海のカードは「東海のカード (トイカ)」。これも妙に捻くらないわかりやすい日本語になっている。また、名古屋地区の私鉄の共通カードもわかりやすい日本語になっているが、「日本の真ん中、暮らしの真ん中 (マナカ)」とやや煩い感じがする。

関西方面へ目を向けて見ると、J R 西日本は横文字を捻った名前ではあるが「行こか (イコカ)」。

関西圏の私鉄地下鉄の共通カードは「ピッとタッチしてパッと乗る (ピタパ)」というわかりやすい名前になっている点では札幌市営地下鉄と良く似ているが、語源としては横文字を捻ったものである。関西の二つのカードは、利用者の日常生活の動きを表した名前の付け方で、利用者の心をとらえているような気がする。関西特に大阪に多く見られる、「短くて直接的でわかりやすい表現」がここにも見え隠れしている感じがする。動物園のライオンのおりの横にある「噛みます！」という看板や路地裏に見かける「小便するな」に代表される大阪の文化なのだろうか。

さらに西へ行き九州に渡るとまたイメージが変わって来る。J R 九州のカードも横文字捻り型ではあるが、土地 (福岡) の言葉を使って利用者の心を表現した「凄か! (スゴカ)」。福岡県下を走る西日本鉄道でも横文字捻り型に解説を付けたような「バスにも電車にも買い物にも (ニモカ)」。福岡市交通局のカードは、日本語を捻った言葉を語源としてしかもスゴカ同様に福岡の言葉を使って親しみを持たせている「早か券 (ハヤカケン)」。

これだけ調べて見ても、それぞれのカードの名称には「その土地らしさ」が匂っていて面白い。

首都圏のカードの横文字を捻りまくった難しい名前に比べると、その他の地域のものは味わいがある。

カードの名称をみただけで、そこへ行ってみたいなと思うようなものがいくつも出てくるから不思議だ。交通ICカードに限らず、何事にも言えそうなことだが「地域の滲み出るような味」というものが存在しない首都圏のつまらなさ、それにも関わらず「これはすげえんだぜ」と理屈っぽくこねくりまわす都会人の、「恰好よさそうに見せているが、実態は無粋さが漂う」生活文化が現れているのかもしれない。と言ってしまうのもちょっと残酷な気がするので、この場合は「この無粋さが首都圏の味」なのだろうということに締めくくりにする。

ともあれ、交通ICカードと高速道路については「どこで乗ってもどこで降りても料金計算ができる仕組み」を早く実現して欲しいと思う日々である。

以上

交通ICカードの名称とその語源（抜粋版）

カードの名前	会社及び摘要エリア	カード名称の語源
Kitaca	J R北海道	J R北 (<u>キタ</u>) 海道の <u>カ</u> ード
Suica	J R東日本	Super Urban Intelligent CArd の略
TOICA	J R東海	TOkai Ic CArd
ICOCA	J R西日本	IC Operating CARD (行こか)
SUGOCA	J R九州	Sumart Urban GOing Card (凄か!)
SAPICA	札幌市営地下鉄	<u>サッ</u> と取り出し <u>ピッ</u> と使う <u>カ</u> ード
NORUCA	福島交通	バスに <u>乗るカ</u> ード
KURURU	長野県下バス	やって <u>来る</u> すべてのバスに <u>乗れる</u>
PASMO	首都圏私鉄及びバス	PASSNET+MORE
manaca	名鉄名古屋市交通局ほか	日本の真ん中、暮らしの真ん中をつなぐカード
PiTaPa	関西圏私鉄地下鉄バス	Postpay Ic for Tuch And PAy <u>ピッ</u> と <u>タッチ</u> して <u>パッ</u> と乗る
IruCa	四国 琴平電鉄ほか	イルカ (琴電のマスコットキャラクター) +IC カード
ですか	四国 土佐電鉄	電車 (<u>でん</u> しゃ)・ <u>バス</u> ・ <u>カ</u> ード
PASPY	広島地区バス電車船	PASs hapPY SPeedY (乗車券・幸せ・速い)
はやかけん	福岡市交通局 (地下鉄)	<u>はやく</u> て <u>やさ</u> しくて <u>か</u> いてきな券 (<u>けん</u>)
nimoca	西日本鉄道	NIce MOney CArd バスにも電車にも買い物にも